



箱根関所

日本の源流 再発見

File 35 神奈川県小田原市、箱根町

時空を超えて、石畳の連なる江戸の旅路へ

2018年5月、「旅人たちの足跡残る悠久の石畳道 一箱根八里で辿る遥かな江戸の旅路」が日本遺産に認定されました。旧東海道の箱根八里には、日本遺産を構成する多くの文化財が現存し、街道を歩めば宿場町や関所、茶屋など往時のままの風景が旅人を魅了します。



江戸が息づく箱根八里を巡る、歴史散歩

箱根山を東西に越える箱根旧街道「箱根八里」は、小田原宿から箱根峠を上り、三島宿まで下る約8里(32kmほど)の道で、天下の嶮とたたわれたように、東海道第一の難所といわれていました。風雪によるぬかるみを緩和するため当初は竹が敷かれていましたが、地方大名や奉行など要人も往来する幹線であることから、江戸初期には徳川幕府によって石畳が敷かれ整備されました。苔むした険しい石畳の坂道を上っていくと、江戸時代を生きた旅人の息づかいが聞こえてくるようです。

戦国時代に北条氏の本拠地となり、現在は本丸や二の丸などが国の史跡に指定されている小田原城。廃城から

およそ90年の時を経て、1960年に復興された天守閣からは、在りし日の城主も眺めたであろう、相模湾を望む大パノラマを一望できます。

江戸幕府が人や物の往来を監視するため設置した箱根関所。江戸防衛のための重要な役目を担い続けましたが、設置から250年後の1869年、関所制度の廃止にともないその役目を静かに終えました。1922年には「箱根関跡」として国の史跡に指定され、その後発掘や文献資料調査を経て、2007年、威風堂々とした往代の姿に甦りました。

小涌谷の蛇骨川上流にある千条の滝は、幅20m、高さ3mと横に広がるすだれ状の滝です。小涌谷は、江戸期には



▲ 小田原城

北条氏の本拠地として知られる小田原城。
現在は小田原城址公園として整備され、春には桜の名所として市民に愛されています

▼ 箱根旧街道杉並木

元箱根から恩賜箱根公園まで続く、箱根旧街道沿いの杉並木。
かつての東海道の雰囲気の色濃く残り、箱根の風情を代表する街道風景です



▲ 千条の滝

幾筋にも分かれて水が落ちることがその名の由来といわれています。
秋は紅葉狩りも楽しめる癒やしスポットです

▼ 芦ノ湖

およそ3000年前に箱根火山のカルデラの中に誕生した、周囲約20kmの細長い湖。
南岸の杉並木街道から眺める「逆さ富士」は、知る人ぞ知る絶景です



「小地獄」と呼ばれるほどの荒れ果てた地でしたが、明治初期には温泉地としてにぎわいをみせます。千条の滝の美しい景観も、そのころから旅人たちに知られるようになりました。

箱根駅伝といった伝統的な催しも多く、季節を問わず観光客が集まる芦ノ湖周辺は、箱根関所や箱根神社など史跡が点在する歴史エリアとしても注目されています。かつて滝廉太郎作詞の『箱根八里』で、昼なお暗き杉の並木とうたわれた箱根旧街道杉並木は、芦ノ湖畔の箱根旧街道に沿って美しい杉が並びます。旅人が休息できる木陰を与え、風雪からも守るため、江戸幕府が道の両脇に植えたもので東海道では唯一といわれています。今でも樹齢数百年を超える杉の木々が、行き交う旅人たちを静かに見守りその心と体を癒やし続けています。

ココに
注目



江戸初期創業の甘味処「甘酒茶屋」。砂糖を使わずに地場産のうるち米と米こうじのみで仕込んだ自慢の甘酒は、はるか昔から愛され続ける名物です。風情あるかやぶき屋根の外観と、やさしい甘酒の味わいで、江戸時代の旅人の気分。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた神奈川県小田原市に隣接する中井町には株式会社日立情報通信エンジニアリングの中井事業所があります。サーバー・ストレージなどの設計開発で培ってきた高度なエンジニアリング力で、お客さまのビジネスや社会にとって価値あるサービスを提供していきます。

株式会社 日立情報通信エンジニアリング 中井事業所

神奈川県足柄上郡中井町境781番地 (グリーンテックなかい)

<https://www.hitachi-ite.co.jp/index.html>